



スモールサンゼミ 京都通信 7 月号

2019 年 7 月 16 日
第 22 号

6 月ゼミ報告

内容報告 報告者 奥田英詔

この号の内容

1 テーマ

「和える」流 これからの経営スタイル
～「生きる」の中に
「働く」がある経営～

2 講師

・株式会社和える 代表取締役
矢島 里佳 氏

3 アンケートより

一つの事業に頼るのではなく、柱を
4つ立てる

“ゼミでの一言”

①ジャーナリストとして、何を伝えたいかを考えたが、なかった好きな遊びは、田舎おままごと。田舎に憧れた。お茶室は、日本文化の総合芸術だと思った。

②硬いホームページは不利。記者も一般の人。時代性も読む今だったら女性を出した方がいい。

③経営者にとって一番大事なものは、心と体が健康。ネガティブなものを発散しない。

・元々ジャーナリストを目指していたが、大学四年生で“あえる”を起業。
・人格とは、人以外だと、法人格だけ 会社マーク『あえる君』（二つの円：赤い丸日の丸＋七宝模様（一人一人））
・平成元年前後の世代はモーレツに働く世代ではない。生きることを楽しみたい。働くことだけが全てではない。ワークライフバランス：社会に出るのが不安な人が多いので、今の世代は、心と体が乖離した人が多い。7～80歳まで働くと考えているので、せめて自分が幸せに働ける職場で働きたい。
・日本の伝統産業を若い人に伝えたい：昭和の近代産業化、バブル崩壊、核家族化。この結果、工芸品は、高価な商品といった意味になっていった。
・「赤ちゃんに伝統産業を伝える」今後の世代は、ロボットが同僚。人間らしい人間を生み出す教育。子供に教育するのは、伝統産業の豊かさを伝えていく
こぼしにくい容器を作るプロジェクト。現在8都道府県にて実施
・文化と経済が両輪で成り立つ・・・あえるでは、文化が先と考えている。コップだけでも、緑茶、ワイン、紅茶、コーヒー・・・飲料の文化のもとに成り立っている。必要だけならコップは1個でいいが、文化があるので、複数種類発生している。現在文化が失われてきている。文化が経済を生み、経済が文化をうむので、文化が失われると、経済も失われるのではないかな？

・「物を贈る」→「想いを贈る」（21世紀）
京都の梅小路駅 JR のホテルにあえるルームを作るプロジェクト中。丹後ちりめんの部屋や、北山杉の部屋を企画。京都の抱える問題を形にしている。
・メディア活用方法：経営者が本気で社会に役に立つと思っていることが伝わる。それと意外性。『赤ちゃん』『未来』『職人』この組み合わせが意外であり興味をひいた
・テレビ出演に向けて：新聞は地方紙がハードル低いのでそこからはじめた。次にラジオ。そして雑誌。最後にテレビ。テレビ局は下請けの制作会社からプレゼンもらって決定している。
・会社がどのようにどう社会に役立つかが伝わっていくこと。みんなの役に立つことがはっきりしていたら、メディアはとりあげなくてはいけない。

ゼミアンケート内容より

- ・20～30代の若い世代の特性を正しく理解する。営業ツールを増やし、他社と争わない方法で育てる必要がある
- ・会う人を変えることにより、学ぶ切り口を変えること。
- ・流動的に生きる。時代の流れを読む（コンセプト）、他力本願

その1 『2019年スモールサン全国研修会』

◆日時◆:9月13日(金)13:00~19:00

12:30~ 開場

13:00~15:00 第一部【第2回スモールサンアワード】

15:15~17:15 第二部【特別講演&セッション「楽しくなければ、仕事じゃない!」】

17:30~19:00 交流会

◆会場◆:品川プリンスホテル メインタワー「ゴールド19」

<http://www2.princehotels.co.jp/shinagawa/access/>

◆費用◆:

《スモールサン会員及び会員の紹介》

■ 一部二部のみ 10,000 円

■ 懇親会まで 22,000 円

その2

『スモールサンゼミ京都 秋のゴルフコンペ』

予告

2019 年 10 月 19 日(土)

場所:未定